

# 2025年度 学校評価(自己評価)

学校法人 相愛学園  
武蔵野相愛幼稚園

当園教職員の自己評価に合わせて、保護者代表の評議員にも評価をいただき、2025年度の保育の総括と園運営についてまとめました。これを受けて、次年度も保育の充実、教育環境の整備、教職員の資質向上に努めてまいります。

## I. 園の教育目標

武蔵野相愛幼稚園の建学の精神である「相愛」(互いに愛し合ひましょう)の実践の場として、キリスト教を基盤とする保育を行う。  
礼拝や日常の保育を通して、目には見えない神さまを知り、神と人ともに愛されている存在として安心して過ごし、希望をもって生きることを大切にす。また、周囲の人々と喜びや悲しみの感情を共にする生活の中で、すべての人が神さまから愛されているかけがえのない存在であることを知り、互いに尊重する関係へと育ちあうことを願う。  
一人ひとりの子どもが、そのらしさを大切に、友だちや保育者と出会い、満足するまで遊ぶ体験を重ねることを通じて、共に生きることへの自信を培う。

## II. 2025年度の重点目標

保育の年主題に、「ともに」を掲げ、旧約聖書イザヤ書43章5節「わたしはあなたと共にいる。」の聖句を中心に据え、一人ひとりが神様から与えられている賜物を活かし、豊かな感性と想像力をもって、存分に遊ぶ。互いに認め合い、励まし合い、嬉しいときも悲しいときも共にいてくださる神様を身近に感じて過ごす。満三歳児から年長の園児、保護者、保育者、幼稚園に係わる者すべてが、神さまとともに生きる喜び、人とともに生きる喜びを感じ、感謝しつつ歩む一年とする。

## III. 2025年度の評価項目の達成 及び 取り組み状況 教育課程

取り組み状況	評価	評価と改善に向けて
<b>1,教育目標</b>  ・礼拝担当者の計画に基づき、礼拝でのお話が語られている。聖書理解も深く、子どもたちの礼拝に向かう心がここ数年で高まってきていると感じている。こうした神さまへの思いを土台として、子どもたち一人一人の生活が形づくられている。 ・満三歳児が「やりたい遊び」に打ち込む姿には、目を見張るものがあつた。やりたい遊びを存分に味わえることこそ、この年齢ならではの大切な宝物である。この子どもたちがこれからどのように育っていくのか、見守っていききたい。 ・年齢を重ねるほど、ゲームや各種メディアから受ける影響の大きさを実感した一年であった。現代において、こうした影響はある程度、避け難い側面を持つ。したがって、単に排除を志向するのではなく、相互の精神に支えられた関係性の中でこそ可能となる、より創造的な遊びと豊かな成長の機会を育んでいきたい。	A	 ・幼稚園のセキセイインコが風邪を引いたときには「神様が一緒だから大丈夫だよ」と語りかけたり、「神様が喜んでくださるような声で賛美歌を歌おう」と話したりする子どもの姿が見られた。子どもたちは、神様の恵みを身近に感じながら、日々の生活を送ってきた。 ・学年を超えた環境の中で、子どもたちは友達の発想や遊びに刺激を受けつつ、互いに関わり合いながら育ち合っている。 ・相愛の根幹である礼拝においては、今後も子どもたちの心に寄り添う丁寧なお話が続けられていくことを願う。 ・うまくいくことも、思い通りにならないことも、みんなで共に感じ、考え、認め合う関係性の中で、家族のように支え合いながら育つ「相愛らしさ」を、これまで以上に深く味わう一年となった。
<b>2,保育日数・保育時間</b>  ・保育日数:184日(年少組) 年少組:4/9～14 9:00～11:30 4/15～ 月・火・木 9:00～13:30 水 9:00～11:30 金 9:00～13:00 年中・年長組:月・火・木・金 9:00～14:00 水 9:00～11:30	A	 ・感染症による欠席は見られたものの、園内で流行するには至らなかった。一方で、家庭の事情による欠席や、定められた登園時間を守れない子どもの姿が多く見受けられた。2026年度は、登園時刻を9:00とすると、告知している。

<p><b>3,保育の計画と実践</b></p> <p>・四学年がそろって活動に取り組む機会が増えたことは、大きな成果だと感じている。保育参加日の保育内容も、学年を超えた連携によって柔軟に構成できるようになり、そのことが保護者の満足度の向上にもつながっているように感じる。今後もこの取り組みを継続し、園全体の保育の質の向上に生かしていきたい。</p>	A	<p>・四学年が一堂に会して活動する機会を、例年よりもさらに多く設けたことで、年少児は年長児に憧れを抱き、年長児は年中児の言葉に励まされるなど、異年齢での新しい出会いが子ども同士の成長へとつながった。</p>
<p><b>4,行事</b></p> <p>・高温や低温、感染症の流行などに留意し、一人一人が安全かつ快適に過ごせるよう環境を整えながら保育を進めた。行事に対する保護者の参加意欲は高く、準備や当日の運営にも積極的に関わる姿が見られ、役割分担をしながら協力して取り組むことができた。</p>	A	<p>・みんなが自ら楽しんでいると、園全体の空気がいきいきと明るくなる。そのような雰囲気や育んでいけるよう、保護者の方々とつながりを大切にしながら、プログラムの検討や準備を丁寧に重ねていきたい。こうした取り組みを通して、次の活動へとより良くつなげていきたい。</p>
<p><b>5,保育の在り方・幼児への対応</b></p> <p>・対応の難しい子どもも少なくない。だからこそ、興奮しすぎることなく、できるだけ落ち着いた心持ちで対話することを心がけてきた。「甘やかす」とは違い、その子が抱えている混乱を理解し、その混乱と一緒にほどこいていく。そのようなイメージで子どもたちに寄り添ってきた。</p>	A	<p>・年長児が編み物に取り組む中で、うまくいかない場面があっても諦めず、保育者や友達に教えてもらいながら編み進めていく姿が見られた。自分の作りたいものを形にすることができた子どもは、大きな達成感を味わっていた。自分の力でやってみようとする経験と保育者や友達の助けを借りる経験を行き来しながら新しいことに挑戦したことが、自信の芽生えへとつながった。</p>
<p><b>6,保護者への対応</b></p> <p>・子どもの姿や保護者の様子を、毎日職員間で共有することで、保育者同士、また、保育者と保護者が、信頼し合いながら心をあわせて子どもの育ちを支えた。</p>	B	<p>・自分の生き方にとらわれ、異なる価値観を想像しにくい保護者が増えてきた。わが子のつまづきを誰かのせいにしてしまうことがあるが、責めても現実には動かない。私たち保育者にできるのは、一つ一つの場面を捉え、子どもと接するときと同じように、その人の捉われを見つけては、結び目を丁寧にほどこくように声をかけ続けることだけだと考える。</p>
<p><b>7,保育者の研修・資質向上</b></p> <p>・自分の保育を見つめ直す機会として、できるだけ研修に参加したい。自ら学ぼうとする姿勢を大切にし、毎日の保育や生活の中にも多くの学びがあることを忘れずにいたい。思い込みや決めつけをせず、子どもや保護者、同僚、そして社会のさまざまな声に耳を傾ける姿勢を持ち続けることで、保育者としての資質はいつでも高めていけると感じている。</p>	B	<p>・保育者として自らの課題を主体的に見いだせるよう、今後も研修会には積極的に参加したい。また、研修で得た学びや気づきを職員同士で共有し合い、園全体の保育の質向上につなげていく。 ・常に他者の声に耳を傾け、新たな考え方にも向き合いながら、時代の変化を的確に捉えられる柔軟な発想を持つ保育者でありたい。</p>

## 学校運営

取り組み状況	評価	評価と改善に向けて
<p><b>1,組織・園内分掌・会議</b></p> <p>・園長、主任教諭、事務長が中心となり、クラスごとの子どもの姿や生活状況を保育者間で継続的に共有している。各クラスの担任だけでなく、全ての保育者が子どもの育ちを共に理解し支えていく体制を大切にしている。</p>	A	<p>・効率の良さばかりが求められる仕事ではないことを忘れず、自分の得意と不得意を自覚しながら、周囲を思いやり、ときに支え、ときに支えられながら働いていきたい。</p>
<p><b>2,出納・経理</b></p> <p>・エアコン入替工事、外壁・フェンスの塗装工事はともに十数年に一度のことであったが、引当金を取り崩すことなく行うことができた。</p>	A	<p>・園児数の劇的な増加は見込めないものの、財政的には安定しており、引き続き補助金等を活用して保育環境を整えていきたい。</p>

<p><b>3,施設・設備</b></p> <p>・夏期休業中に、1階ホールと2階保育室のエアコンの入替工事、園舎外壁とフェンスの塗装工事を行った。9月以降、電気使用量が大幅に減少しており、省エネ性能が上がっていることを実感している。</p>	A	<p>・2026年度は、フェンス・門扉の新設工事を、防犯対策を加えて行うべく、準備を進めている。また、去年のエアコン入替にあたり、クールネット東京の省エネ診断を受けたので、1階保育室・教師室・事務室のエアコンも、補助金を活用しながら順次入れ替えたい。</p>
<p><b>4,健康・安全</b></p> <p>・インフルエンザB型が流行したものの、園内での罹患者は少数にとどまった。今後も引き続き子どもたちの体調管理に配慮し、体調がすぐれない場合には無理な登園を控えるよう保護者へ呼びかけた。また、猛暑の夏には、活動の時間帯や場所を工夫し、こまめな水分補給を促しながら、安全面に十分留意して保育を行った。</p>	A	<p>・十分に換気を行い、手洗いやうがいを行うよう声をかけながら保育にあたった。園内で感染が広がることはなかった。</p> <p>・信頼を得るには時間がかかるが信頼を失うのは一瞬のことであることを心に留めて努力を怠らない。</p>
<p><b>5,情報</b></p> <p>・ブログ、インスタグラム、ホームページを活用して、幼稚園での子どもの姿や行事の様子を発信してきた。</p>	A	<p>・園児や保護者の個人情報には細心の注意を払いながら運用していく。</p>
<p><b>6,開かれた幼稚園</b></p> <p>・園の行事には保護者を招き、保育参加では保護者も共に活動することで、子どもの育ちを実感できる時間を大切にしている。</p> <p>・他園からの見学希望を受け入れる際は神経を使うが、自園の保育を振り返るよい機会にもなっている。</p> <p>・保育参加の受け入れ方も工夫を重ねたことで、みんなで楽しい時間を共有することができた。</p>	A	<p>・幼稚園での子どもの生活を実際に感じることで、子どもの成長や課題に向き合うきっかけとなる。</p>
<p><b>7,保護者会・母の会・父の会</b></p> <p>・全体、クラスの保護者会ともに今までの持ち方に捉われず、時間や場所、内容を考えながら進めた。</p> <p>・オリーブの会(保護者の会)の各係は、誕生会で劇をしたり、コーラスを披露したり、絵本の読み聞かせを行ったりして、子どもたちと楽しい時間を分かち合った。</p>	A	<p>・誕生会のおやつ作り、お楽しみの劇や合唱披露、絵本の読み聞かせなどは、子どもが実際に生活している場で、その場の空気に触れることで、保護者にとって子どもたちの育ちを感じられる良い機会となっている。</p>
<p><b>8,園児募集</b></p> <p>・更に厳しい時代になっていることを、日々痛感している。</p> <p>・保護者間のトラブルによって転出児があったことは、とても残念であった。何よりも大切なのは、一人ひとりの子どもと保護者と丁寧に向き合う保育である。</p> <p>・ホームページやブログ、インスタグラムの発信を支えてくれている担当者の働きには、感謝している。</p>	B	<p>・「変えられないものを受け入れる心の静けさ」と「変えられるものを変える勇気」、「その二つを見分ける知恵」を与え給えと祈りつつ歩む。</p>
<p><b>9,教育実習</b></p> <p>・保育者養成校の学生の減少には驚く。よい学生との出会いを祈っている。</p>	B	<p>・教育実習生の受け入れを積極的に行っているのは、社会的責任としても重要と感じているからであり、今後も力を尽くしていきたい。</p>

## 社会貢献

取り組み状況	評価	評価と改善に向けて
<b>1,地域との連携</b> ・入園前の子どもを対象とした「たまごの会」は、子どもにとっても保護者にとっても、温かく豊かなひとときとなっている。 ・道で卒園児に出会った時や卒園児の保護者から献品を頂いた時など、さまざまなきっかけを園長が丁寧につないでくれ、卒園後も交流が続いている。 ・地域にあつて園を応援してくれる多くのサポーターの存在は、私たち幼稚園にとって何よりの財産である。	B	・これからの人との育ち合いと助け合いに関して、難しいことが多くあつた一年であつた。すべては、日々の保育の質に尽きると感じている。
<b>2,保育の公開</b> ・保育参加や他園からの見学の受け入れなど、十分になされたと感じる。	A	・子ども同士の関わりや、幼稚園での生活を身近で感じてもらう場であつた。今後もよく考えて園みんなと一緒に進めていく。
<b>3,各種研究会への協力・支援</b> ・園長は、キリスト教保育連盟理事長および東京都私立幼稚園研修会教育研究委員として研修会の企画・運営に携わっているため、保育者もその趣旨を理解し、可能な限り協力していく。	A	・様々な園の保育者と意見を交わす中で、自園でも取り入れられる工夫や、自分自身の課題に気付くことができた。今後は「こうしなければならない」という枠にとらわれず、その時々の子どもの姿に即した援助を考えていきたい。

### 結果について

- A 十分に達成されている
- B 達成されている
- C 取り組んだが、成果が十分でない
- D 取り組みが不十分である

### 2026年度 今後へ向けて

幼稚園は、子どもたちが安心して自分らしさを発揮できる場。そのために、保育者と保護者が同じ思いを共有しながら、一人ひとりの育ちを共に見つめ、支えていきたい。

子どもが自分で考え、自分の力でやってみる経験を重ねられるよう、その機会を大切にしたい保育の場でありたい。四学年の園児が学年の枠を越えて共に遊び、学び、生活することを通して、子ども同士のかかわりの中で生まれる学びと成長を守り育てていく。

社会の変化や保護者の子育て観の多様化など、さまざまな現実に向き合う必要を感じるが、そんな中でも最も変わらないのは子どもそのものの姿である。子どもを育てることの尊さ、大切さを改めて心に刻み、これからも保育の一層の充実を図っていきたい。